



# インストールガイド

---

Forte Developer 7

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054 U.S.A.  
650-960-1300

Part No. 816-4915-10  
2002 年 6 月 , Revision A

Copyright © 2002 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、この製品に組み込まれている技術に関連する知的所有権を持っています。具体的には、これらの知的所有権には <http://www.sun.com/patents> に示されている 1 つまたは複数の米国の特許、および米国および他の各国における 1 つまたは複数のその他の特許または特許申請が含まれますが、これらに限定されません。

本製品はライセンス規定に従って配布され、本製品の使用、コピー、配布、逆コンパイルには制限があります。本製品のいかなる部分も、その形態および方法を問わず、Sun およびそのライセンサーの事前の書面による許可なく複製することを禁じます。

フロント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Forte、Java、iPlanet、NetBeans および docs.sun.com は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC の商標はライセンス規定に従って使用されており、米国および他の各国における SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。SPARC の商標を持つ製品は、Sun Microsystems, Inc. によって開発されたアーキテクチャに基づいています。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Netscape および Netscape Navigator は、米国ならびに他の国における Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

Sun f90 / f95 は、米国 Cray Inc. の Cray CF90™ に基づいています。

libdwarf and lidredblack are Copyright 2000 Silicon Graphics Inc. and are available under the GNU Lesser General Public License from <http://www.sgi.com>.

Federal Acquisitions: Commercial Software -- Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含み、明示的であるか黙示的であるかを問わず、あらゆる説明および保証は、法的に無効である限り、拒否されるものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典 :      *Installation Guide*  
              Part No: 816-2466-10  
              Revision A

© 2002 by Sun Microsystems, Inc.



# 目次

---

はじめに ix

1. インストールの準備 1
  - ソフトウェアのインストールの概要 1
  - システム条件 2
2. **CD-ROM** からのソフトウェアのインストール 5
  - 旧リリースのソフトウェアのサポート 5
  - 試用版ソフトウェアからのアップグレード 6
  - ソフトウェアのインストール手順 6
    - 製品のシリアル番号の検索 7
      - ローカルまたはリモートのインストールの選択 7
      - グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方 11
      - コマンド行を使用したソフトウェアのインストール 15
      - バッチインストールの使用 19
      - Solaris JumpStart インストーラの使用 23
    - PATH 変数と MANPATH 変数の変更 24
      - Forte Developer ツールにアクセスするための PATH 環境変数の設定 24
      - Forte Developer マニュアルページにアクセスするための MANPATH 環境変数の設定 25

- 適切な環境変数への変更内容の追加 26
- 3. ダウンロードしたソフトウェアのインストール 29
  - 旧リリースのソフトウェアのサポート 29
  - 試用版ソフトウェアからのアップグレード 30
  - ソフトウェアのインストール手順 30
    - 製品のシリアル番号の検索 30
    - ローカルまたはリモートのインストールの選択 31
    - グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方 35
    - コマンド行を使用したソフトウェアのインストール 40
    - バッチインストールの使用 44
    - Solaris JumpStart インストーラの使用 47
    - 追加ソフトウェアのインストール 49
  - PATH 変数と MANPATH 変数の変更 49
    - Forte Developer ツールにアクセスするための PATH 環境変数の設定 50
    - Forte Developer マニュアルページにアクセスするための MANPATH 環境変数の設定 51
    - 適切な環境変数への変更内容の追加 51
- 4. アンインストーラによるソフトウェアのアンインストール 55
  - ローカルアンインストールとリモートアンインストールの選択 56
  - グラフィカルユーザーインターフェースのアンインストーラの使い方 57
  - コマンド行アンインストーラの使い方 59
  - バッチアンインストーラの使い方 60
- 5. トラブルシューティング 63
  - 製品登録の問題 63
    - インストールの失敗をどのように突き止めて修正しますか。 63
    - productregistry ファイルが破損している場合、どのように対処しますか。 64

ログファイルとシリアル番号ファイル 65

インストールのログファイルは、どのように表示しますか。 65

インストールされているシリアル番号はどのように検索しますか。 65

自分のシリアル番号を忘れてしまった場合は、どのように対処しますか。 66

システムの修正 66

シンボリックリンクがポイントするディレクトリにインストールするには、どのようにしますか。 66

インストーラを呼び出すとシステムが動かなくなるのはなぜですか。 67

A. **Forte Developer 7** コンポーネントおよびパッケージ 69

B. **Solaris** パッチの識別および説明 79

用語集 81

索引 83



## 表目次

---

表 1-1	全体ディストリビューションまたは全体ディストリビューションと OEM 構成のプラットフォームごとのシステム条件 2
表 2-1	batch_installer オプションの説明 20
表 2-2	batch_installer コマンドおよびオプションを使用したインストールのシナリオ 21
表 3-1	batch_installer オプションの説明 45
表 3-2	batch_installer コマンドおよびオプションを使用したインストールのシナリオ 46
表 A-1	Solaris SPARC プラットフォーム版 に対応する Forte Developer 製品パッケージのメタクラスタコンポーネント 70
表 A-2	SPARC プラットフォーム版 に対応する Forte Developer 製品パッケージコンポーネント 71
表 B-1	Solaris 7 SPARC プラットフォーム版の Forte Developer 7 ソフトウェアとともにインストールされているパッチ番号と説明 79
表 B-2	Solaris 8 SPARC プラットフォーム版の Forte Developer 7 ソフトウェアとともにインストールされているパッチ番号と説明 79



## はじめに

---

このマニュアルでは、次の作業手順について説明します。

- Forte™ Developer 7 ソフトウェアおよびシリアル番号のインストール
- Forte Developer 7 ソースディストリビューションソフトウェアまたは Sun Performance Library 7 ソフトウェアのインストール
- ソフトウェアの削除
- インストールに関する問題のトラブルシューティング

このマニュアルは、ソフトウェアのインストールを行うシステム管理者を対象にしています。Solaris™ のオペレーティング環境と UNIX のコマンドについて多少の知識が必要となります。

---

## 書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コーディング例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表わします。	<pre>machine_name% <b>su</b> Password:</pre>
AaBbCc123 または ゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前または実際の値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『SPARCstorage Array ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合、バックslash シュは、継続を示します。	machinename% grep `^#define \nXV_VERSION_STRING`
>	階層メニューのサブメニューを選択することを示します。	作成: 「返信」>「送信者へ」

---

## シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<code>machine_name%</code>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	<code>machine_name\$</code>
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	<code>#</code>

---

---

## Forte Developer マニュアルへのアクセス

Forte Developer の製品マニュアルには、以下からアクセスできます。

- 製品マニュアルは、ご使用のローカルシステムまたはネットワークの製品にインストールされているマニュアルの索引から入手できます。

`/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html`

製品ソフトウェアが `/opt` 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

- マニュアルは、`docs.sun.com` の Web サイトで入手できます。次のタイトルのマニュアルは、インストールされている製品のマニュアルの索引から入手できます (`docs.sun.com` Web サイトでは入手できません)。

- 『Standard C++ Library Class Reference』
- 『標準 C++ ライブラリ・ユーザーズガイド』
- 『Tools.h++ クラスライブラリ・リファレンスマニュアル』
- 『Tools.h++ ユーザーズガイド』

インターネットの `docs.sun.com` Web サイト (<http://docs.sun.com>) から、サン  
のマニュアルを読んだり、印刷したり、購入することができます。マニュアルが見つ  
からない場合はローカルシステムまたはネットワークの製品とともにインストールさ  
れているマニュアルの索引を参照してください。

---

注・Sun では、本マニュアルに掲載した第三者の Web サイトのご利用に関しましては責任はなく、保証するものでもありません。また、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイトから利用可能であるコンテンツ、製品、サービスのご利用あるいは信頼によって、あるいはそれに関連して発生するいかなる損害、損失、申し立てに対する一切の責任を負いません。

---

## アクセスできる製品マニュアル

Forte Developer 7 製品マニュアルは、技術的な補足をすることで、ご不自由なユーザーの方々にとって読みやすい形式のマニュアルを提供しております。アクセス可能なマニュアルは以下の表に示す場所から参照することができます。製品ソフトウェアが /opt 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

---

マニュアルの種類	アクセス可能な形式と格納場所
マニュアル(サードパーティ製マニュアルは除く)	形式：HTML 場所： <a href="http://docs.sun.com">http://docs.sun.com</a>

---

---

サードパーティ製マニュアル:	形式: HTML インストール製品について 場所: 『Standard C++ Library Class Reference』 『標準 C++ ライブラリ・ユーザーズガイド』 『Tools.h++ クラスライブラリ・リファレンスマニュアル』 『Tools.h++ ユーザーズガイド』
Readme およびマニュアルページ	形式: HTML インストール製品について 場所: file:/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html のマニュアル索引
リリースノート	製品 CD 内のテキストファイル

---

## ご意見の送付先

米国 Sun Microsystems, Inc. では、マニュアルの向上に力を注いでおり、ユーザーのご意見やご提案をお待ちしております。ご意見などがありましたら、次のアドレスまで電子メールをお送りください。

docfeedback@sun.com

## テクニカルサポートへの連絡先

テクニカルサポートへは、以下の URL から連絡することができます。

<http://www.sun.co.jp/forte/developer/support.html>



# 第1章

## インストールの準備

---

この章では、次の項目について説明します。

- ソフトウェアのインストールの概要
  - システム条件
- 

### ソフトウェアのインストールの概要

この節では、Forte™ Developer 7ソフトウェア、シリアル番号、およびサポートソフトウェアをインストールする一般的な手順について説明します。

1. アプリケーションサーバーがこのリリースの最低条件を満たしている必要があります。2 ページの「システム条件」を参照してください。
2. 製品のインストール時にシリアル番号をインストールする必要があります。  
CD-ROM からの製品とシリアル番号のインストールについては、第 2 章を参照してください。また、Web からダウンロードしてインストールする場合は、第 3 章を参照してください。
3. Forte™ Developer 7 製品をインストールして、Forte™ for Java™ のコンパイラソフトウェアとして使用する場合、Forte Developer 7 のインストールパスのメモを取っておいてください。Forte for Java 製品インストールに絶対パスを設定する必要があります。詳細については、<http://www.sun.co.jp/forte/ffj> を参照してください。

マニュアルの指示どおりに作業を行うと、Forte Developer ソフトウェアを使用する準備が整います。

---

## システム条件

このリリースの Forte Developer は、全体ディストリビューションまたは全体ディストリビューションと OEM 構成の Solaris™ オペレーティング環境 SPARC™ プラットフォームのバージョン 7、8、9 をサポートします。

---

注 - ディスク容量の条件、およびこのリリースに関する最新の情報については、  
<http://www.sun.co.jp/forte/fcc> の Forte Developer 7 Compiler  
Collection Web サイトに掲載されているリリースノートを参照してください。

---

表 1-1 に、全体ディストリビューションまたは全体ディストリビューションと OEM 構成の各プラットフォームに必要なシステム条件を示します。

表 1-1 全体ディストリビューションまたは全体ディストリビューションと OEM 構成のプラットフォームごとのシステム条件

---

### Solaris SPARC Platform バージョン 7、8、または 9

---

システム	Ultra 60 360 MHzSun blade 100 500 MHz を推奨 Ultra 10 以上
モニター	1152 x 900 解像度; 15" カラーモニター
メモリー	256 M バイト以上、768 M バイトを推奨
スワップ空間 <sup>1</sup>	512 M バイト以上、1024 M バイトを推奨
ディスク容量	1.5 ギガバイト
周辺装置	CD-ROM ドライブ
OS の構成	全体ディストリビューションまたは全体ディストリビュー ションと OEM

---

1.スワップ空間のチェックには、 `swap -s` コマンドを使用してください。

スワップ空間を追加するには、以下を実行します。

1. スーパーユーザーになります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. ディレクトリを選択してスワップ空間を追加するファイルを作成します。次のコマンドを使用してください。

```
mkfile -n <size [m|k|b]> directory/<swapfilename>
```

このコマンドで、<size[m|k|b]>にはスワップファイルのサイズを指定します。*m*はメガバイト、*k*はキロバイト、*b*はブロックを意味しています。*directory*にはスワップ空間を追加するアクセス権のあるディレクトリを指定します。例えば、16mswapという名前の16Mバイトのスワップファイルを作成するには、次の通り入力します。

```
# mkfile -n 16m /directory/16mswap
```

詳細は、mkfileのマニュアルページを参照してください。

3. 次の通り入力して、ファイルが作成されたかどうか確認します。

```
# ls -l /directory/16mswap
```

4. swap コマンドを実行して、追加するスワップ空間を指定します。

```
# swap -a /directory/16mswap
```

5. 次の通り入力して、スワップ空間が追加されたかどうか確認します。

```
# swap -s
```



## 第2章

### CD-ROM からのソフトウェアのインストール

---

この章では、製品 CD-ROM から Forte™ Developer 7 ソフトウェアとシリアル番号をインストールするための具体的な手順について説明します。

---

注 - ソフトウェアのインストールに `pkgrm` コマンドを使用しないようにしてください。提供されているインストーラを使用してください。

---

### 旧リリースのソフトウェアのサポート

同一マシン上で、旧リリースの Forte Developer と新リリースの Forte Developer の両方をサポートするには、旧リリースの Forte Developer または Sun WorkShop がインストールされているディレクトリとは別のディレクトリを新しいリリースのインストール先に選択してください。たとえば、旧リリースの開発支援ツールが `/opt` にインストールされている場合は、十分なディスク空き容量を持つファイルシステムに新しいディレクトリを作成し、このディレクトリに新しい開発支援ツールをインストールします。たとえば、次のようにします。

```
/opt/
```

旧バージョンのディレクトリ

```
/export/home3/tools
```

新バージョンのディレクトリ

インストールが完了したら、環境変数 PATH と MANPATH を修正し、新しいディレクトリを使用するように設定します。新しいリリースを使用するために変数を設定する詳細については、24 ページの「PATH 変数と MANPATH 変数の変更」を参照してください。

---

## 試用版ソフトウェアからのアップグレード

試用版ソフトウェアから購入版ソフトウェアにアップグレードする場合、ソフトウェア製品を再インストールする必要はありません。提供されているインストーラを使用して、永久的なシリアル番号をインストールする必要があります。この章で説明されている手順に従い、シリアル番号を正しく入力したら、インストーラを終了できます。

---

## ソフトウェアのインストール手順

Forte Developer 7 のインストーラを実行するには、2 種類の方法があります。

- GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) を使用する方法 (詳細については 11 ページの「グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方」を参照してください)
- グラフィカルユーザーインターフェース機能がない場合に選択する `installer` コマンド行インストールプログラムを使用する方法 (詳細については、15 ページの「コマンド行を使用したソフトウェアのインストール」を参照してください)。コマンド行インストールでは、バッチインストーラ (19 ページの「バッチインストールの使用」) および JumpStart インストーラ (23 ページの「Solaris JumpStart インストーラの使用」) も使用します。

7 ページの「ローカルまたはリモートのインストールの選択」に進んで、ローカルまたはリモートのいずれでインストールするかを決定してください。

## 製品のシリアル番号の検索

製品を購入すると、製品パッケージに封入されているカードにシリアル番号が記載されています。この番号を、インストール時にインストーラの「シリアル番号を入力」区画に入力します。

## ローカルまたはリモートのインストールの選択

ローカルインストールでは、1台のマシンをソースマシン兼ターゲットマシンとして使用します。リモートインストールではソースマシンとターゲットマシンが異なります。ソースマシンにはダウンロードしたソフトウェアファイルとインストーラが置かれ、ターゲットマシンはソフトウェアをインストールするために使用されます。

ローカルインストールとリモートインストールには次の3つの種類があります。

- **ローカルインストール** ソースマシンとターゲットマシンが同じです。11ページの「グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方」、15ページの「コマンド行を使用したソフトウェアのインストール」、または19ページの「バッチインストールの使用」へ進みます。
- **リモートインストール 1** ターゲットマシンを使用して、ソースマシンにソフトウェアをインストールします。7ページの「リモートインストール 1」に進みます。
- **リモートインストール 2** ターゲットマシンを使用して、ソースマシンからターゲットマシンにソフトウェアをインストールします。8ページの「リモートインストール 2」に進みます。

### リモートインストール 1

リモートインストール 1では、ターゲットマシンを使用して、ソースマシンにソフトウェアをインストールします。次の手順に従ってください。

1. ターゲットマシンで、コマンド行に次のコマンドを入力します。これで、クライアントにアクセスできるようになります。

```
% /usr/openwin/bin/xhost + source-machine-name
```

*source-machine-name* には、ソースマシンで `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

2. ソースマシンにログインし、次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
# rlogin source-machine-name -l root
Password:root-password
```

3. ディスプレイを使用しているモニターに設定します。  
C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY hostname:0.0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=hostname:0.0
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=hostname:0.0
```

*hostname* には、`/usr/bin/hostname` コマンドの出力内容を入力します。

4. コンピュータのディスクドライブに CD-ROM を挿入することにより、製品ファイルへ移動します。
5. 11 ページの「グラフィカルユーザーインタフェースのインストーラの使い方」、15 ページの「コマンド行を使用したソフトウェアのインストール」、または 19 ページの「バッチインストールの使用」へ進みます。

## リモートインストール 2

リモートインストール 2 では、ターゲットマシンを使用して、ソースマシンからターゲットマシンにソフトウェアをインストールします。次の手順に従ってください。

---

注 - 手順 1、手順 2、手順 3、および手順 4 はソースマシンで実行します。

---

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password:root-password
```

2. /etc/dfs/dfstab ファイルに、次の行を追加して、製品イメージを NFS ファイルシステムとして共有します。

```
share -F nfs -o ro /cdrom/ml_devpro_v10n1_sparc
```

3. 次のコマンドを入力して、ソースマシンが NFS サーバーであることを確認します。

```
# ps -ef | grep nfsd
```

nfsd が実行されていれば、次のように表示されます。

```
root 237 1 17 Jun 04 ?0:00 /usr/lib/nfs/nfsd -a 16
```

表示内容が異なる場合には、次のコマンドを入力して nfsd を起動します。

```
# /etc/init.d/nfs.server start  
# ps -ef | grep nfsd
```

上記の例のように出力が表示されます。表示内容が異なる場合は、システム管理者またはご購入先にお問い合わせください。

nfsd が実行されている場合は、次のコマンドを入力して製品イメージを使用可能にします。

```
# /usr/sbin/shareall
```

4. 次のように入力して、ソースマシンが製品ディレクトリをエクスポートしていることを確認します。

```
# /usr/sbin/dfshares
```

次に示すような画面が表示されます。

RESOURCE	SERVER	ACCESS	TRANSPORT
<i>server-name : product-location</i>	<i>server-name</i>	-	-

---

注 - 手順 5, 手順 6, 手順 7, 手順 8, 手順 9 および 手順 10 はターゲットマシンで実行します。

---

5. ターゲットマシンで、コマンド行に次のコマンドを入力します。これで、クライアントにアクセスできるようになります。

```
% /usr/openwin/bin/xhost + source-machine-name
```

6. ターゲットマシンで、スーパーユーザー (root) としてログインします。

```
% su  
Password: root-password
```

7. ターゲットマシン上で、次の通り入力して新規ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /install
```

8. 次のように入力して、製品ファイルをマウントします。

```
# mount source-machine:/cdrom/ml_devpro_v10n1_sparc /install
```

9. 次の通り入力して 手順 7 で作成したディレクトリに移動します。

```
# cd /install
```

10. ディスプレイを使用しているモニターに設定します。

C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY hostname:0.0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=hostname:0.0  
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=hostname:0.0
```

*hostname* には、`/usr/bin/hostname` コマンドの出力内容を入力します。

11. 11 ページの「グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方」、15 ページの「コマンド行を使用したソフトウェアのインストール」、または 19 ページの「バッチインストールの使用」へ進みます。

## グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方

ここでは、インストーラを使用して Forte Developer 7 ソフトウェアとシリアル番号をインストールする方法について説明します。

---

注 - ソフトウェアのインストールに `pkgrm` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。

---

1. ローカルまたはリモートインストールを選択します。

7 ページの「ローカルまたはリモートのインストールの選択」を参照してください。

2. ディスクドライブに CD-ROM を挿入することにより、製品ソフトウェアへ移動します。

3. 個別のシェル ウィンドウで次のコマンドを入力することにより、クライアントにアクセスすることができます。

```
% xhost +
```

4. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

5. インストーラを起動するには、CD-ROM ソフトウェアにおいてインストーラアイコンをダブルクリックします。

インストーラを呼び出す別の種類の方法を次に示します。

- a. 次のコマンドを入力して、CD-ROM ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/ml_devpro_v10n1_sparc
```

- b. 次のように入力して、インストーラを起動します。

```
# ./installer
```

---

注 - インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

---

インストーラが起動する前に、Forte Developer 7 ソフトウェアがインストールされているか、複数の旧バージョンの Forte Developer リリースがシステムにインストールされているか、またはその他のバージョンの Forte Developer が同じディレクトリにインストールされているかのメッセージが表示されます。

6. メッセージに応答し、継続する場合に **y** を入力します。Forte Developer の旧バージョンを削除する必要がある場合は、**n** を入力して 第 4 章 に進みます。

インストーラを起動すると、開始画面が表示されます。

7. 開始画面で「次へ」をクリックします。

ソフトウェアの試用および購入ライセンス契約書区画が表示されます。

8. ソフトウェアの試用および購入ライセンス契約書区画から、「同意する」をクリックします。「同意しない」を選択した場合、インストールを継続できません。「次へ」をクリックして、「製品の選択」区画に進みます。
9. 「デフォルトインストール」列または「カスタムインストール」列にあるボタンをクリックして、インストールするソフトウェアを選択します。

---

**注** - デフォルトで選択される「Solaris patches for Forte Developer 7 software」では、パッチがインストールされます。すでにパッチをインストールした場合、デフォルトのパッチをインストールしてもシステムの性能は落ちません。パッチの詳細については、各パッチディレクトリの README ファイルを参照してください。

---

デフォルトインストールでは、すべてのコンポーネントとそれらの機能に関連するすべてのオンラインドキュメントがインストールされます。

カスタムインストールでは、インストールするコンポーネントを選択できます。

10. 「次へ」をクリックして、「インストールディレクトリの選択」に進みます。ソフトウェアのインストールディレクトリを `/opt` 以外に変更するかどうかを決定します。

旧バージョンの Forte Developer を使用しているマシンに新バージョンの Forte Developer をインストールする場合は、5 ページの「旧リリースのソフトウェアのサポート」を参照してください。

選択したインストールディレクトリは、この Web Start セッションのデフォルトのインストールディレクトリになります。

- `/opt` にインストールする場合、「次へ」をクリックします。Forte Developer ソフトウェアが `/opt` にインストールされている場合、別のインストールディレクトリを選択する必要があります。
- `/opt` 以外のディレクトリにソフトウェアをインストールする場合、テキストフィールドに新しい場所を入力するか、別の場所をブラウズします。インストールディレクトリを選択したら「次へ」をクリックします。

11. (オプション) カスタムインストールのみの場合、「コンポーネントの選択」区画で、インストールするコンポーネントを選択します。コンポーネントの選択が完了したら、「次へ」をクリックします。

---

注・ 複数の製品をカスタムインストールしている場合、製品ごとに異なる「コンポーネントの選択」区画が表示されます。

---

12. インストールを継続する場合は、「次へ」をクリックします。  
シリアル番号の入力区画が表示されます。
13. テキストボックスに 26 文字のシリアル番号を入力するか、「60日間の試用」ボタンをクリックして、試用シリアル番号を生成します。「次へ」をクリックします。

---

注・ 試用版ソフトウェアからアップグレードする場合、永久シリアル番号の入力後にインストーラを終了できます。

---

インストーラによってディスク容量がチェックされた後、「インストールの準備完了」区画が表示されます。

---

注・ `homedirectory-name` という名前のディレクトリに製品をインストールした場合、インストーラにより、ディスク容量が不足しているという警告がなされます。このメッセージは無視することができ、引き続きインストールを実行できます。

---

14. 「インストールの準備完了」区画で、インストールする項目を確認します。選択が完了したら、「インストール開始」をクリックしてインストールを開始します。  
インストールする項目を追加する場合、「戻る」をクリックして「製品の選択」ウィンドウに戻り、追加する項目を選択します。「次へ」をクリックして「インストールの準備完了」区画に戻ります。
15. 「次へ」をクリックしてインストールを進めます。  
インストールの状況を示す進捗バーが表示されます。
16. 「インストールの一覧」ウィンドウでメッセージを確認した後、「終了」をクリックして、インストールを終了します。
17. ディスクドライブから CD-ROM を取り出します。
18. リモートインストールを実行した場合は、次の手順に進みます (リモートインストールを実行しなかった場合は、手順 19 に進みます)。  
リモートインストール 1 の場合

- a. 次のコマンドで、クライアントからのアクセスを不能にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - source-machine-name
```

- b. 次のコマンドを入力して、ソースマシンでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

リモートインストール 2 の場合

- ターゲットマシンで、次のコマンドを入力して `/install` ディレクトリのマウントを解除します。

```
# umount /install
```

19. スーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

20. 次のように入力して、クライアントへのアクセスを不可にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - target-machine-name
```

21. 新機能、問題点と対処方法、マニュアルの問題点、ソフトウェアのエラー訂正についての詳細は、`/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html` にある README ファイル (html) をよく読みます。README ファイルのテキスト版は、`/opt/SUNWspro/READMEs/ja` にあります。
22. 24 ページの「PATH 変数と MANPATH 変数の変更」の手順に従って、PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。

## コマンド行を使用したソフトウェアのインストール

ここでは、コマンド行インタフェースを使用して Forte Developer 7 をインストールする方法について説明します。

---

注 - ソフトウェアのインストールに `pkgrm` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。

---

次の手順に従ってください。

1. ローカルまたはリモートインストールを選択します。  
7 ページの「ローカルまたはリモートのインストールの選択」を参照してください。
2. ディスクドライブに CD-ROM を挿入することにより、製品ソフトウェアへ移動します。

```
% cd /cdrom/ml_devpro_v10n1_sparc
```

3. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

4. 次のコマンドを入力して、コマンド行のインストールを起動します。

```
# ./installer -nodisplay
```

---

注 - インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

---

インストーラが起動する前に、Forte Developer 7 ソフトウェアがインストールされているか、複数の旧バージョンの Forte Developer リリースがシステムにインストールされているか、またはその他のバージョンの Forte Developer が同じディレクトリにインストールされているかのメッセージが表示されます。

5. 処理を継続する場合は、**y** を入力します。Forte Developer の旧バージョンを削除する必要がある場合は、**n** を入力して 第 4 章 に進みます。

6. Enter キーを入力します。

ソフトウェアの試用および購入ライセンス契約書が表示されます。

---

注 - ご使用のキーボードによっては Enter キーと Return キーが同じものがあります。インストール中にデフォルトインストールを受け入れるには、Enter キーを使用します。

---

7. バイナリソフトウェアライセンス契約書を読み、プロンプトで「同意する」と入力し、Enter キーを押して作業を続けます。  
「同意しない」と入力した場合、インストールを継続できません。
8. インストール (インストールなし、デフォルトインストール、カスタムインストール) について製品を選択または選択解除するには、検討の対象になっている製品に対応する番号 (0-6) を入力します。すべての製品についてデフォルトインストールを受け入れるには、Enter キーを押します。

---

注 - デフォルトで選択される「Solaris patches for Product Name」では、パッチがインストールされます。すでにパッチをインストールした場合、デフォルトのパッチをインストールしてもシステムの性能は落ちません。パッチの詳細については、各Patch ディレクトリの README ファイルを参照してください。

---

9. 各製品のインストールのタイプを選択します。
  - インストールを行わない場合は **1** を入力します。「No Install」では、製品が選択解除され、その製品はインストールされません。
  - デフォルトインストールを行う場合は **2** を入力します。「Default Install」では、すべてのコンポーネントとその製品に関連するオンラインマニュアルがインストールされます。
  - カスタムインストールを行う場合は **3** を入力します。「Custom Install」では、インストールするコンポーネントを選択できます

10. インストールについて別の製品を選択または選択解除する場合は、手順 8 に戻ってください。選択が完了した場合は、「Done」を選択してください。
11. 作業を進める前に、インストール先を指定してください。
  - デフォルトディレクトリ /opt をインストールする場合、Enter キーを押します。
  - 別のディレクトリを選択する場合、新しいディレクトリの名前を入力します。
12. 手順 9 において製品のカスタムインストールを選択した場合、コンポーネントの番号を入力した後に Enter キーを押して、インストールするコンポーネントを選択または選択解除します。選択作業が完了したら、0 を入力して Enter キーを押します。
13. 26 文字の永久シリアル番号を入力するか、「60 日間試用」を選択して試用シリアル番号を生成します Enter キーを押します。

---

注 - 試用版ソフトウェアからアップグレードする場合、シリアル番号の入力後にインストーラを終了できます。

---

シリアル番号の確認後、インストーラによりディスク容量がチェックされ、不足している場合は警告が発せられます。

---

注 - *homedirectory-name* という名前のディレクトリに製品をインストールした場合、インストーラにより、ディスク容量が不足しているという警告がなされます。このメッセージは無視することができ、引き続きインストールを実行できます。

---

14. 製品とそのコンポーネントの一覧が確認のために表示されます。
  - インストールを継続する場合は 1 を入力します。
  - 手順 8 からやり直す場合は 2 を入力します。
  - インストールを終了する場合は 3 を入力します。1 を入力してインストールを継続する場合、進捗インジケータが表示されます。
15. インストールが完了した場合、製品に対応する番号を入力すると、その製品のログファイルを確認できます。ログファイルの確認が終了したら、完了の番号を入力します。
16. ディスクドライブから CD-ROM を取り出します。

17. リモートインストールを実行した場合は、次の手順に進みます (リモートインストールを実行しなかった場合は、手順 18 に進みます)。

リモートインストール 1 の場合

- a. 次のコマンドで、クライアントからのアクセスを不能にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - source-machine-name
```

- b. 次のコマンドを入力して、ソースマシンでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

リモートインストール 2 の場合

- ターゲットマシンで、次のコマンドを入力して */install* ディレクトリのマウントを解除します。

```
# umount /install
```

18. スーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

19. 新機能、問題点と対処方法、マニュアルの問題点、ソフトウェアのエラー訂正についての詳細は、*/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html* にある README ファイル (html) をよく読みます。README ファイルのテキスト版は、*/opt/SUNWspro/READMEs/ja* にあります。
20. PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。24 ページの「PATH 変数と MANPATH 変数の変更」を参照してください。

## バッチインストールの使用

バッチインストーラを使用して、Forte Developer 7 ソフトウェア、Sun Performance Library™ 7 ソフトウェアまたは Forte Developer 7 ソースディストリビューションソフトウェアをデフォルトでインストールできます。

---

注 - ソフトウェアのインストールに `pkgrm` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。

---

バッチインストールを実行するには、次の指示に従ってください。

1. ローカルまたはリモートインストールを選択します。  
7 ページの「ローカルまたはリモートのインストールの選択」を参照してください。
2. ディスクドライブに CD-ROM を挿入することにより、製品ソフトウェアへ移動します。

```
% cd /cdrom/ml_devpro_v10n1_sparc
```

3. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

次のコマンドを使用すると、バッチインストーラを実行できます。

```
batch_installer [-s serial_number|-t|-n] [-d dirname] [-R root_path] [-h]
```

`batch_installer` コマンドで使用できるオプションについては、表 2-1 を参照してください。

表 2-1 `batch_installer` オプションの説明

オプション名	オプションの説明
<code>-s serial_number</code>	シリアル番号を指定します
<code>-t</code>	試用シリアル番号を生成します。
<code>-n</code>	シリアル番号を使用しません サードパーティ製のソースソフトウェアなど、ライセンスを必要としない製品については、このオプションを使用します。このオプションを使用すると、インストーラは、シリアル番号が旧バージョンにインストールされていたと仮定します。

表 2-1 batch\_installer オプションの説明 (続き)

オプション名	オプションの説明
-d <i>dirname</i>	ディレクトリ <i>dirname</i> にインストールします。
-R <i>root_path</i>	ルートシステムおよび製品への絶対パスを指定します このオプションを JumpStart インストールで使用すると、ルートディレクトリを設定できます。
-h	使用方法を表示します

batch\_installer コマンドおよびオプションは、次の表 2-2 で示すシナリオで使用できます。

表 2-2 batch\_installer コマンドおよびオプションを使用したインストールのシナリオ

シナリオ	プロンプトで入力するコマンド
デフォルトディレクトリに試用シリアル番号を使用してインストール	<code>#./batch_installer -t</code>
別のディレクトリに試用シリアル番号を使用してインストール	<code>#./batch_installer -t -d /dirname</code>
デフォルトディレクトリにシリアル番号を使用しないでインストール シリアル番号が見つからない場合、エラーメッセージが表示されます。	<code>#./batch_installer -n</code>
デフォルトディレクトリ以外のディレクトリにシリアル番号を使用しないでインストール	<code>#./batch_installer -n -d /dirname</code>
試用シリアル番号を使用し、ルートを変更してインストール	<code>#./batch_installer -R /a/opt -t</code>

4. 表 2-2 から、batch\_installer コマンドを実行するために適切なインストールのシナリオを選択します。例えば、60 日間試用シリアル番号を生成し、デフォルトディレクトリにインストールするためのオプションを使用するには、次の通り入力します。

```
# ./batch_installer -t -d /opt
```

- バイナリソフトウェアライセンス契約書を読み、プロンプトで「同意する」と入力し、Enter キーを押して作業を継続します。

「同意しない」と入力した場合、インストールを継続できません。

バイナリソフトウェアライセンス契約書を受け入れると、インストーラは十分なディスク容量があるかどうかをチェックします。インストーラはインストールを継続し、インストール完了時にプロンプトを返します。

- リモートインストールを実行した場合は、次の手順に進みます (リモートインストールを実行しなかった場合は、手順7に進みます)。

リモートインストール 1 の場合

- 次のコマンドで、クライアントからのアクセスを不能にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - source-machine-name
```

- 次のコマンドを入力して、ソースマシンでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

リモートインストール 2 の場合

- ターゲットマシンで、次のコマンドを入力して */install* ディレクトリのマウントを解除します。

```
# umount /install
```

- スーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

- 新機能、問題点と対処方法、マニュアルの問題点、ソフトウェアのエラー訂正についての詳細は、</opt/SUNWsprо/docs/ja/index.html> にある README ファイル (html) をよく読みます。README ファイルのテキスト版は、</opt/SUNWsprо/READMEs/ja> にあります。
- PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。24 ページの「PATH 変数と MANPATH 変数の変更」を参照してください。

## Solaris JumpStart インストーラの使用

Solaris JumpStart™ インストーラを Solaris™ 9 オペレーティング環境 SPARC® プラットフォーム版で使用すると、Forte Developer 7 ソフトウェアのインストールプロセスが自動化され、複数のシステムにソフトウェアをインストールできます。

JumpStart インストールの大まかな手順を以下に示します。JumpStart インストールの完全な詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

1. ターゲットマシンの `swap` パーティションと `/opt` パーティションの両方に数ギガバイトのディスク容量があることを確認します。
2. ダウンロードした製品ファイルを `$SI_CONFIG_DIR` ディレクトリにコピーします。
3. ターゲットマシンに常駐する終了スクリプトを作成します。ファイルには次の情報が含まれています。

シリアル番号を使用するインストールの場合:

```
#!/bin/sh
cd $SI_CONFIG_DIR/cdrom_path
./batch_installer -s xxxxxx-xxxxxxxx-xxxxxxxx -R /a
```

---

注 - 上のファイルの例にあるシンボル `xxxxxx-xxxxxxxx-xxxxxxxx` は、製品のシリアル番号を表しています。

---

製品のシリアル番号を使用しないインストールの場合:

```
#!/bin/sh
cd $SI_CONFIG_DIR/cdrom_path
./batch_installer -n -R /a
```

---

注 - `batch_installer -d` オプションは、JumpStart インストールで機能しません。

---

利用可能な `batch_installer` コマンドオプションについては、19 ページの「バッチインストールの使用」を参照してください。

4. JumpStart インストールプロセスの詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

---

## PATH 変数と MANPATH 変数の変更

forte Developer 7 製品のコンポーネントとマニュアルページは、システムの `/usr/bin/` と `/usr/share/man` の各ディレクトリにインストールされないので、Forte Developer 7 を使用できるようにするには、PATH 環境変数と MANPATH 環境変数を変更する必要があります。

---

注 - この節で示しているパスでは、Forte Developer パッケージは、標準の `/opt` ディレクトリにインストールされているとみなされます。ソフトウェアを起動したときに別のインストールディレクトリを指定した場合は、例の中の `/opt` を、ユーザーが選択したインストールパスに置き換えてください。

---

C シェルを使用している場合は、PATH 変数と MANPATH 変数はホームの `.cshrc` ファイルに設定し、Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合は、ホームの `.profile` ファイルに設定する必要があります。

---

注 - `/opt/SUNWspro/bin` は Forte Developer 7 ソフトウェアが追加されたパスです。以前のリリースとの下位互換については、シンボリックリンクが作成されるので、既存の PATH および MANPATH を変更する必要はありません。

---

PATH 変数および MANPATH 変数の詳細については、SunOS™ マニュアルページの `csh(1)` に C シェルの PATH 変数について、`sh(1)` に Bourne シェルの PATH 変数について、`ksh(1)` に Korn シェルの PATH 変数についてそれぞれ説明されています。 `man(1)` のマニュアルページは、MANPATH 変数について説明しています。

## Forte Developer ツールにアクセスするための PATH 環境変数の設定

Forte Developer 7 ソフトウェアコマンドを使用するには、PATH 環境変数にパス `/opt/SUNWspro/bin` を含める必要があります。PATH 環境変数を設定する必要性の有無を判定するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力して、PATH 変数の現在の値を表示します。

```
% echo $PATH
```

2. `/opt/SUNWspro/bin/` を含むパスの文字列を確認します。
  - パスが見つかった場合、`PATH` 変数は Forte Developer ツールにアクセスできるように設定されています。 (`/opt` パスは代替インストールパスで置き換えることもできます。)
  - パスが見つからない場合、次のステップの説明どおりに `PATH` 変数を設定します。
3. パス `/opt/SUNWspro/bin/` を `PATH` 環境変数に追加します。
  - C シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.cshrc` ファイルをパスに追加します。
  - Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.profile` ファイルをパスに追加します。

## Forte Developer マニュアルページにアクセスするための MANPATH 環境変数の設定

`man` コマンドを使用して Forte Developer 7 マニュアルページにアクセスするには、`MANPATH` 環境変数にパス `/opt/SUNWspro/man` を含める必要があります。`MANPATH` 環境変数を設定する必要性の有無を判定するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力して、`dbx(1)` マニュアルページを要求します。

```
% man dbx
```

2. 出力を確認します。

`man dbx` コマンドが `dbx(1)` マニュアルページを検索できない場合、または表示されているページがインストールしたソフトウェアのバージョン用でない場合は、`MANPATH` 変数が正しく設定されていません。次のステップの説明どおりに、`MANPATH` 変数を設定してください。
3. パス `/opt/SUNWspro/man/` を `MANPATH` 環境変数に追加します。
  - C シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.cshrc` ファイルをパスに追加します。
  - Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.profile` ファイルをパスに追加します。

## 適当な環境変数への変更内容の追加

以下の説明では、該当する環境変数にこれらのパスを永久に追加する方法を示し、いずれの Forte Developer 7 のコンポーネントも常に利用できるようにします。これらのコマンドは、シェルプロンプトに入力して、そのシェルを一時的に利用できるようにすることもできます。

1. Forte Developer 7 を PATH 変数と MANPATH 変数に追加します。

---

注 - インストールしたソフトウェアを使用するため、Forte Developer 7 が各ユーザー環境に含まれるように PATH 変数と MANPATH 変数を設定する必要があります。

---

- C シェル ( csh ) を使用している場合は、まず MANPATH 変数がすでに設定されているかどうかを確認します。シェルプロンプトで、次のコマンドを入力してください。

```
% echo $MANPATH
```

応答が「未定義の変数 (Undefined variable)」(C シェル) または空白行 (Bourne/Korn シェル) の場合は、MANPATH 変数は設定されていません。複数のマニュアルディレクトリへのパスが表示された場合は、変数は設定済みです。

ホームディレクトリで .cshrc ファイルを編集し、ファイルの末尾に次の行を追加します。

```
set path=(/opt/SUNWspro/bin $path)
```

MANPATH 変数が設定されていない場合は、次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:/usr/share/man
```

MANPATH 変数が設定済みの場合は、代わりに次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:$MANPATH
```

- Bourne シェル (sh) または Korn シェル (ksh) を使用している場合は、ホームディレクトリの `.profile` ファイルを編集し、次の行を追加します。

```
PATH=/opt/SUNWspro/bin${PATH:+:} ${PATH}
MANPATH=/opt/SUNWspro/man:${MANPATH:=/usr/share/man}
```

これらの 2 行にスペースを入力しないでください。

2. 手順 1 で修正した `.cshrc` ファイルまたは `.profile` ファイルを保存します。
3. 次のコマンドを実行してシェルを再度初期設定します。

C シェルの場合

```
source ~/.cshrc
```

Bourne シェルまたは Korn シェルの場合

```
. ~/.profile
```

これで Forte Developer 7 ソフトウェアを使用する準備が整いました。



## 第3章

# ダウンロードしたソフトウェアのインストール

---

この章では、ダウンロードした Forte™ Developer 7 ソフトウェアとシリアル番号をインストールするための具体的な手順について説明します。

---

注・ ソフトウェアのインストールに `pkgrm` コマンドを使用しないようにしてください。提供されているインストーラを使用してください。

---

## 旧リリースのソフトウェアのサポート

同一マシン上で、旧リリースの Forte Developer と新リリースの Forte Developer の両方をサポートするには、旧リリースの Forte Developer または Sun WorkShop がインストールされているディレクトリとは別のディレクトリを新しいリリースのインストール先に選択してください。たとえば、旧リリースの開発支援ツールが `/opt` にインストールされている場合は、十分なディスク空き容量を持つファイルシステムに新しいディレクトリを作成し、このディレクトリに新しい開発支援ツールをインストールします。たとえば、次のようにします。

`/opt/`

旧バージョンのディレクトリ

`/export/home3/tools`

新バージョンのディレクトリ

インストールが完了したら、環境変数 PATH と MANPATH を修正し、新しいディレクトリを使用するように設定します。新しいリリースを使用するために変数を設定する詳細については、49 ページの「PATH 変数と MANPATH 変数の変更」を参照してください。

---

## 試用版ソフトウェアからのアップグレード

試用版ソフトウェアから購入版ソフトウェアにアップグレードする場合、ソフトウェア製品を再インストールする必要はありません。提供されているインストーラを使用して、永久的なシリアル番号をインストールする必要があります。この章で説明されている手順に従い、シリアル番号を正しく入力したら、インストーラを終了できます。

---

## ソフトウェアのインストール手順

Forte Developer 7 のインストーラを実行するには、2 種類の方法があります。

- GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) を使用する方法 (詳細については 35 ページの「グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方」を参照してください)
- グラフィカルユーザーインターフェース機能がない場合に選択する installer コマンド行インストールプログラムを使用する方法 (詳細については、40 ページの「コマンド行を使用したソフトウェアのインストール」を参照してください)。コマンド行インストールでは、バッチインストーラ (44 ページの「バッチインストールの使用」) および JumpStart インストーラ (47 ページの「Solaris JumpStart インストーラの使用」) も使用します。

31 ページの「ローカルまたはリモートのインストールの選択」に進んで、ローカルまたはリモートのいずれでインストールするかを決定してください。

## 製品のシリアル番号の検索

製品を購入すると、シリアル番号が請求書に記載されています。この番号を、インストール時にインストーラの「シリアル番号を入力」画面に入力します。

## ローカルまたはリモートのインストールの選択

ローカルインストールでは、1 台のマシンをソースマシン兼ターゲットマシンとして使用します。リモートインストールではソースマシンとターゲットマシンが異なります。ソースマシンにはダウンロードしたファイルが置かれ、ターゲットマシンはソフトウェアをインストールするために使用されます。

ローカルインストールとリモートインストールには次の 3 つの種類があります。

- **ローカルインストール** ソースマシンとターゲットマシンが同じです。35 ページの「グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方」、40 ページの「コマンド行を使用したソフトウェアのインストール」、または 44 ページの「バッチインストールの使用」へ進みます。
- **リモートインストール 1** ターゲットマシンを使用して、ソースマシンにソフトウェアをインストールします。31 ページの「リモートインストール 1」に進みます。
- **リモートインストール 2** ターゲットマシンを使用して、ソースマシンからターゲットマシンにソフトウェアをインストールします。32 ページの「リモートインストール 2」に進みます。

### リモートインストール 1

リモートインストール 1 では、ターゲットマシンを使用して、ソースマシンにソフトウェアをインストールします。次の手順に従ってください。

1. ターゲットマシンで、コマンド行に次のコマンドを入力します。これで、クライアントにアクセスできるようになります。

```
% /usr/openwin/bin/xhost + source-machine-name
```

*source-machine-name* には、ソースマシンで `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

2. ソースマシンにログインし、次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (`root`) になります。

```
# rlogin source-machine-name -l root  
Password: root-password
```

- ディスプレイを使用しているモニターに設定します。  
C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY hostname:0.0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=hostname:0.0  
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=hostname:0.0
```

*hostname* には、`/usr/bin/hostname` コマンドの出力内容を入力します。

- 次のコマンドを入力して、製品ディレクトリに移動します。

```
% cd download-directory
```

- 35 ページの「グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方」、40 ページの「コマンド行を使用したソフトウェアのインストール」、または 44 ページの「バッチインストールの使用」へ進みます。

## リモートインストール 2

リモートインストール 2 では、ターゲットマシンを使用して、ソースマシンからターゲットマシンにソフトウェアをインストールします。次の手順に従ってください。

---

注 - 手順 1、手順 2、手順 3、および 手順 4 はソースマシンで実行します。

---

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password:root-password
```

2. /etc/dfs/dfstab ファイルに、次の行を追加して、製品イメージを NFS ファイルシステムとして共有します。

```
share -F nfs -o ro /download-directory
```

3. 次のコマンドを入力して、ソースマシンが NFS サーバーであることを確認します。

```
# ps -ef | grep nfsd
```

nfsd が実行されていれば、次のように表示されます。

```
root 237 1 17 Jun 04 ?0:00 /usr/lib/nfs/nfsd -a 16
```

表示内容が異なる 場合には、次のコマンドを入力して nfsd を起動します。

```
# /etc/init.d/nfs.server start  
# ps -ef | grep nfsd
```

上記の例のように出力が表示されます。表示内容が異なる場合は、システム管理者またはご購入先にお問い合わせください。

nfsd が実行されている場合は、次のコマンドを入力して製品イメージを使用可能にします。

```
# /usr/sbin/shareall
```

4. 次のように入力して、ソースマシンが製品ディレクトリをエクスポートしていることを確認します。

```
# /usr/sbin/dfshares
```

次に示すような画面が表示されます。

```
RESOURCE                SERVER    ACCESS  TRANSPORT
server-name : product-location  server-name  -      -
```

---

注 - 手順 5, 手順 6, 手順 7, 手順 9 および 手順 10 はターゲットマシンで実行します。

---

5. ターゲットマシンで、コマンド行に次のコマンドを入力します。これで、クライアントにアクセスできるようになります。

```
% /usr/openwin/bin/xhost + source-machine-name
```

6. ターゲットマシンで、スーパーユーザー (root) としてログインします。

```
% su
Password: root-password
```

7. ターゲットマシン上で、次の通り入力して新規ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /install
```

8. 次のように入力して、製品ファイルをマウントします。

```
# mount source-machine:/download-directory /install
```

9. 次の通り入力して手順 7 で作成したディレクトリに移動します。

```
# cd /install
```

10. ディスプレイを使用しているモニターに設定します。

C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY hostname:0.0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=hostname:0.0  
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=hostname:0.0
```

*hostname* には、`/usr/bin/hostname` コマンドの出力内容を入力します。

11. 35 ページの「グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方」、40 ページの「コマンド行を使用したソフトウェアのインストール」、または 44 ページの「バッチインストールの使用」へ進みます。

## グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラの使い方

ここでは、インストーラを使用して、Forte Developer 7 ソフトウェアとシリアル番号をインストールする方法について説明します。

---

注 - ソフトウェアのインストールに `pkgrm` コマンドを使用しないようにしてください。提供されているインストーラを使用してください。

---

1. ローカルまたはリモートインストールを選択します。

31 ページの「ローカルまたはリモートのインストールの選択」を参照してください。

2. 次のように入力して、ダウンロードしたファイルの内容を圧縮解除および抽出してください。

```
% gunzip -c *.gz | tar xvf -
```

3. ディスク容量を元に戻すには、次のコマンドを入力してダウンロードした tar ファイルを削除します。

```
% rm -f downloaded-file.tar.gz
```

4. ダウンロードしたファイルの内容を抽出した際に作成されたディレクトリに移動します。例えば、Forte\_Developer\_for\_Solaris\_SPARC.tar というファイルの内容を抽出した場合、次のように入力します。

```
% cd ForteDev_sparc
```

5. 個別のシェル ウィンドウで次のコマンドを入力することにより、クライアントにアクセスすることができます。

```
% xhost +
```

6. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

7. 次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
# ./installer
```

---

注 - インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

---

インストーラが起動する前に、Forte Developer 7 ソフトウェアがインストールされているか、複数の旧バージョンの Forte Developer リリースがシステムにインストールされているか、またはその他のバージョンの Forte Developer が同じディレクトリにインストールされているかを尋ねるメッセージが表示されます。

8. メッセージに応答するには、継続する場合に **y** を入力します。Forte Developer の旧バージョンを削除する必要がある場合は、**n** を入力し、第 4 章に進みます。

インストーラを起動すると、開始画面が表示されます。

9. 開始画面で「次へ」をクリックします。  
バイナリコードライセンス契約書区画が表示されます。
10. ソフトウェアの試用および購入ライセンス契約書区画から、「同意する」をクリックします。「同意しない」を選択した場合、インストールを継続できません。「次へ」をクリックして、「製品の選択」区画に進みます。
11. 「デフォルトインストール」列または「カスタムインストール」列にあるボタンをクリックして、インストールするソフトウェアを選択します。

---

注 - デフォルトで選択される「Solaris patches for Forte Developer 7 software」では、パッチがインストールされます。すでにパッチをインストールした場合、デフォルトのパッチをインストールしてもシステムの性能は落ちません。パッチの詳細については、各パッチディレクトリの README ファイルを参照してください。

---

デフォルトインストールでは、すべてのコンポーネントとそれらの機能に関連するすべてのオンラインドキュメントがインストールされます。

カスタムインストールでは、インストールするコンポーネントを選択できます。

12. 「次へ」をクリックして、「インストールディレクトリの選択」に進みます。ソフトウェアのインストールディレクトリを /opt 以外に変更するかどうかを決定します。

旧バージョンの Forte Developer を使用しているマシンに新バージョンの Forte Developer をインストールする場合は、29 ページの「旧リリースのソフトウェアのサポート」を参照してください。

選択したインストールディレクトリは、この Web Start セッションのデフォルトのインストールディレクトリになります。

- /opt にインストールする場合、「次へ」をクリックします。Forte Developer ソフトウェアが /opt にインストールされている場合、別のインストールディレクトリを選択する必要があります。
  - /opt 以外のディレクトリにソフトウェアをインストールする場合、テキストフィールドに新しい場所を入力するか、別の場所をブラウズします。インストールディレクトリを選択したら「次へ」をクリックします。
13. (オプション) カスタムインストールのみの場合、「コンポーネントの選択」区画で、インストールするコンポーネントを選択します。コンポーネントの選択が完了したら、「次へ」をクリックします。

---

注 - 複数の製品をカスタムインストールしている場合、製品ごとに異なる「コンポーネントの選択」区画が表示されます。

---

14. インストールを継続する場合は、「次へ」をクリックします。  
シリアル番号の入力区画が表示されます。
15. テキストボックスに 26 文字のシリアル番号を入力するか、「60日間試用」ボタンをクリックして、試用シリアル番号を生成します。
16. 「次へ」をクリックします。

---

注 - 試用版ソフトウェアからアップグレードする場合、シリアル番号の入力後にインストーラを終了できます。

---

インストーラによってディスク容量がチェックされた後、「インストールの準備完了」区画が表示されます。

---

注 - *homedirectory-name* という名前のディレクトリに製品をインストールした場合、インストーラにより、ディスク容量が不足しているという警告がなされます。このメッセージは無視することができ、引き続きインストールを実行できます。

---

17. 「インストールの準備完了」区画で、インストールする項目を確認します。選択が完了したら、「インストール開始」をクリックしてインストールを開始します。  
インストールする項目を追加する場合、「戻る」をクリックして「製品の選択」ウィンドウに戻り、追加する項目を選択します。「次へ」をクリックして「インストールの準備完了」区画に戻ります。

18. 「次へ」をクリックしてインストールを進めます。  
インストールの状況を示す進捗バーが表示されます。
19. 「インストールの一覧」ウィンドウでメッセージを確認した後、「終了」をクリックして、インストールを終了します。
20. リモートインストールを実行した場合は、次の手順に進みます (リモートインストールを実行しなかった場合は、手順 21 に進みます)。

リモートインストール 1 の場合

- a. 次のコマンドで、クライアントからのアクセスを不能にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - source-machine-name
```

- b. 次のコマンドを入力して、ソースマシンでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

リモートインストール 2 の場合

- ターゲットマシンで、次のコマンドを入力して `/install` ディレクトリのマウントを解除します。

```
# umount /install
```

21. スーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

22. 次のように入力して、クライアントへのアクセスを不可にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - target-machine-name
```

23. 新機能、問題点と対処方法、マニュアルの問題点、ソフトウェアのエラー訂正についての詳細は、`/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html` にある README ファイル (html) をよく読みます。README ファイルのテキスト版は、`/opt/SUNWspro/READMEs/ja` にあります。

24. 49 ページの「PATH 変数と MANPATH 変数の変更」の手順に従って、PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。

## コマンド行を使用したソフトウェアのインストール

ここでは、コマンド行インタフェースを使用して Forte Developer 7 ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

---

注 - ソフトウェアのインストールに `pkgrm` コマンドを使用しないでください。提供されているインストーラを使用してください。

---

次の手順に従ってください。

1. ローカルまたはリモートインストールを選択します。  
31 ページの「ローカルまたはリモートのインストールの選択」を参照してください。
2. 次のように入力して、ダウンロードしたファイルの内容を圧縮解除して、抽出してください。

```
% gunzip -c *.gz | tar xvf -
```

3. ディスク容量を元に戻すには、次のコマンドを入力してダウンロードした tar ファイルを削除します。

```
% rm -f downloaded-file.tar.gz
```

4. ダウンロードしたファイルの内容を抽出した際に作成されたディレクトリに移動します。例えば、`Forte_Developer_for_Solaris_SPARC.tar` というファイルの内容を抽出した場合、次のように入力します。

```
% cd ForteDev_sparc
```

5. スーパーユーザー (`root`) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

6. 次のコマンドを入力して、コマンド行のインストールを起動します。

```
# ./installer -nodisplay
```

---

注 - インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

---

インストーラが起動する前に、Forte Developer 7 ソフトウェアがインストールされているか、複数の旧バージョンの Forte Developer リリースがシステムにインストールされているか、またはその他のバージョンの Forte Developer が同じディレクトリにインストールされているかを尋ねるメッセージが表示されます。

7. 処理を継続する場合は、**y** を入力します。Forte Developer の旧バージョンを削除する必要がある場合は、**n** を入力し、第 4 章に進みます。
8. Enter キーを入力します。

ソフトウェアの試用および購入ライセンス契約書が表示されます。

---

注 - ご使用のキーボードによっては Enter キーと Return キーが同じものがあります。インストール中にデフォルトインストールを受け入れるには、Enter キーを使用します。

---

9. ソフトウェアの試用および購入ライセンス契約書を読み、プロンプトで「同意する」と入力し、Enter キーを押して作業を継続します。  
「同意しない」と入力した場合、インストールを継続できません。
10. インストール (インストールなし、デフォルトインストール、カスタムインストール) について製品を選択または選択解除するには、検討の対象になっている製品に対応する番号 (0-6) を入力します。すべての製品についてデフォルトインストールを受け入れるには、Enter キーを押します。

---

注 - デフォルトで選択される「Solaris patches for Forte Developer 7 ソフトウェア」では、パッチがインストールされます。すでにパッチをインストールした場合、デフォルトのパッチをインストールしてもシステムの性能は落ちません。パッチの詳細については、各パッチディレクトリの README ファイルを参照してください。

---

11. 各製品のインストールのタイプを選択します。
  - インストールを行わない場合は **1** を入力します。「No Install」では、製品が選択解除され、その製品はインストールされません。
  - デフォルトインストールを行う場合は **2** を入力します。「Default Install」では、すべてのコンポーネントとその製品に関連するオンラインマニュアルがインストールされます。
  - カスタムインストールを行う場合は **3** を入力します。「Custom Install」では、インストールするコンポーネントを選択できます (カスタムインストールは 手順 14 で実行できます)。
12. インストールについて別の製品を選択または選択解除する場合は、手順 10 に戻ってください。選択が完了した場合は、「Done」を選択してください。
13. 作業を進める前に、インストール先を指定してください。
  - デフォルトディレクトリ `/opt` をインストールする場合、**Enter** キーを押します。
  - 別のディレクトリを選択する場合、新しいディレクトリの名前を入力します。
14. 手順 11 において製品のカスタムインストールを選択した場合、コンポーネントの番号を入力した後に **Enter** キーを押して、インストールするコンポーネントを選択または選択解除します。選択作業が完了したら、**0** を入力して **Enter** キーを押します。
15. 26 文字のシリアル番号を入力するか、「60 日間試用」を選択して試用シリアル番号を生成します **Enter** キーを押します。

---

注 - 試用版ソフトウェアからアップグレードする場合、シリアル番号の入力後にインストーラを終了できます。

---

シリアル番号の確認後、インストーラによりディスク容量がチェックされ、不足している場合は警告が発せられます。

---

注 - `homedirectory-name` という名前のディレクトリに製品をインストールした場合、インストーラにより、ディスク容量が不足しているという警告がなされます。このメッセージは無視することができ、引き続きインストールを実行できます。

---

16. 製品とそのコンポーネントの一覧が確認のために表示されます。

- インストールを継続する場合は **1** を入力します。
- 手順 10 からやり直す場合は **2** を入力します。
- インストールを終了する場合は **3** を入力します。

**1** を入力してインストールを継続する場合、進捗インジケータが表示されます。

17. インストールが完了した場合、製品に対応する番号を入力すると、その製品のログファイルを確認できます。ログファイルの確認が終了したら、**完了**の番号を入力します。

18. リモートインストールを実行した場合は、次の手順に進みます (リモートインストールを実行しなかった場合は、手順 19 に進みます)。

リモートインストール 1 の場合

a. 次のコマンドで、クライアントからのアクセスを不能にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - source-machine-name
```

b. 次のコマンドを入力して、ソースマシンでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

リモートインストール 2 の場合

- ターゲットマシンで、次のコマンドを入力して `/install` ディレクトリのマウントを解除します。

```
# umount /install
```

19. スーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

20. 新機能、問題点と対処方法、マニュアルの問題点、ソフトウェアのエラー訂正についての詳細は、`/opt/SUNWspr/docs/ja/index.html` にある README ファイル (html) をよく読みます。README ファイルのテキスト版は、`/opt/SUNWspr/READMEs/ja` にあります。

21. PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。49 ページの「PATH 変数と MANPATH 変数の変更」を参照してください。

## バッチインストールの使用

バッチインストーラを使用して、Forte Developer 7 ソフトウェア、Sun Performance Library 7 ソフトウェアまたは Forte Developer 7 ソースディストリビューションソフトウェアをデフォルトでインストールできます。

---

注 - ソフトウェアのインストールに `pkgrm` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。

---

バッチインストーラを実行するには、次の指示に従ってください。

1. ローカルまたはリモートインストールを選択します。  
31 ページの「ローカルまたはリモートのインストールの選択」を参照してください。
2. 次のように入力して、ダウンロードしたファイルの内容を圧縮解除して、抽出してください。

```
% gunzip -c *.gz | tar xvf -
```

3. ディスク容量を元に戻すには、次のコマンドを入力してダウンロードした `tar` ファイルを削除します。

```
% rm -f downloaded-file.tar.gz
```

4. ダウンロードしたファイルの内容を抽出した際に作成されたディレクトリに移動します。例えば、`Forte_Developer_for_Solaris_SPARC.tar` というファイルの内容を抽出した場合、次のように入力します。

```
% cd ForteDev_sparc
```

5. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su
Password:root-password
```

次のコマンドを使用すると、バッチインストーラを実行できます。

```
batch_installer [-s serial_number|-t|-n] [-d dirname] [-R root_path] [-h]
```

batch\_installer コマンドで使用できるオプションについては、表 3-1 を参照してください。

表 3-1 batch\_installer オプションの説明

オプション名	オプションの説明
-s <i>serial_number</i>	シリアル番号を指定します
-t	試用シリアル番号を生成します。
-n	シリアル番号を使用しません サードパーティ製のソースソフトウェアなど、ライセンスを必要としない製品については、このオプションを使用します。このオプションを使用すると、インストーラは、シリアル番号が旧バージョンにインストールされていたと仮定します。
-d <i>dirname</i>	ディレクトリ <i>dirname</i> にインストールします。
-R <i>root_path</i>	ルートシステムおよび製品への絶対パスを指定します
-h	使用方法を表示します

batch\_installer コマンドおよびオプションは、次の表 3-2 で示すシナリオで使用できます。

表 3-2 batch\_installer コマンドおよびオプションを使用したインストールのシナリオ

シナリオ	プロンプトで入力するコマンド
デフォルトディレクトリで試用シリアル番号を使用してインストール	<code>#./batch_installer -t</code>
別のディレクトリで試用シリアル番号を使用してインストール	<code>#./batch_installer -t -d /dirname</code>
デフォルトディレクトリでシリアル番号を使用しないでインストール シリアル番号が見つからない場合、エラーメッセージが表示されます。	<code>#./batch_installer -n</code>
デフォルトでないディレクトリでシリアル番号を使用しないでインストール	<code>#./batch_installer -n -d /dirname</code>
試用シリアル番号を使用してルートを変更し、インストール	<code>#./batch_installer -R /a/opt -t</code>

6. 表 3-2 から、batch\_installer コマンドを実行するために適切なインストールのシナリオを選択します。例えば、60 日間試用シリアル番号を生成し、デフォルトディレクトリにインストールするためのオプションを使用するには、次の通り入力します。

```
# ./batch_installer -t -d /opt
```

7. ソフトウェアの試用および購入ライセンス契約書を読み、プロンプトで「同意する」と入力し、Enter キーを押して作業を続けます。

「同意しない」と入力した場合、インストールを継続できません。

ソフトウェアの試用および購入ライセンス評価契約書を受け入れると、インストーラは十分なディスク容量があるかどうかをチェックします。インストーラはインストールを継続し、インストール完了時にプロンプトを返します。

8. リモートインストールを実行した場合は、次の手順に進みます (リモートインストールを実行しなかった場合は、手順 9 に進みます)。

リモートインストール 1 の場合

- a. 次のコマンドで、クライアントからのアクセスを不能にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - source-machine-name
```

- b. 次のコマンドを入力して、ソースマシンでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

リモートインストーラ 2 の場合

- ターゲットマシンで、次のコマンドを入力して `/install` ディレクトリのマウントを解除します。

```
# umount /install
```

9. スーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

10. 新機能、問題点と対処方法、マニュアルの問題点、ソフトウェアのエラー訂正についての詳細は、`/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html` にある README ファイル (html) をよく読みます。README ファイルのテキスト版は、`/opt/SUNWspro/READMEs/ja` にあります。
11. PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。49 ページの「PATH 変数と MANPATH 変数の変更」を参照してください。

## Solaris JumpStart インストーラの使用

Solaris JumpStar™ インストーラを Solaris™ オペレーティング環境 SPARC プラットフォーム版で使用すると、Forte Developer 7 ソフトウェアのインストールプロセスが自動化され、複数のシステムにソフトウェアをインストールできます。JumpStart インストールの手順の概要を以下に示します。JumpStart インストールの完全な詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

1. ターゲットマシンの `swap` パーティションと `/opt` パーティションの両方に数ギガバイトのディスク容量があることを確認します。

- ダウンロードした製品ファイルを \$SI\_CONFIG\_DIR ディレクトリにコピーします。
- ターゲットマシンに常駐する終了スクリプトを作成します。ファイルには次の情報が含まれています。

シリアル番号を使用するインストールの場合:

```
#!/bin/sh
cd $SI_CONFIG_DIR/web_ForteDev_sparc
./batch_installer -s xxxxxx-xxxxxxxx-xxxxxxxx -R /a
cd $SI_CONFIG_DIR/web_Forte_SRC
./batch_installer -n -R /a
cd $SI_CONFIG_DIR/web_SUN_PERF_LIB
./batch_installer -n -R /a
```

---

注 - 上のファイルの例のシンボル xxxxxx-xxxxxxxx-xxxxxxxx は、製品のシリアル番号を表しています。

---

製品のシリアル番号を使用しないインストールの場合:

```
#!/bin/sh
cd $SI_CONFIG_DIR/web_ForteDev_sparc
./batch_installer -n -R /a
cd $SI_CONFIG_DIR/web_Forte_SRC
./batch_installer -n -R /a
cd $SI_CONFIG_DIR/web_SUN_PERF_LIB
./batch_installer -n -R /a
```

---

注 - batch\_installer -d オプションは、JumpStart インストールで機能しません。

---

利用可能な batch\_installer コマンドオプションについては、44 ページの「バッチインストールの使用」を参照してください。

- JumpStart インストールプロセスの詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

## 追加ソフトウェアのインストール

Sun Performance Library 7 ソフトウェアおよび Forte Developer 7 ソースディストリビューションソフトウェアは別々にダウンロードして使用できます。

- Sun Performance Library 7 ソフトウェアおよび Forte Developer 7 ソースディストリビューションソフトウェアをインストールするには、  
<http://sun.co.jp/forte/fcc> からファイルをダウンロードし、30 ページの「ソフトウェアのインストール手順」の指示に従います。

Sun Performance Library 7 ソフトウェアまたは Forte Developer 7 ソースディストリビューションソフトウェアのダウンロードファイル名をインストールの指示中の例で使用しているようなファイル名に置き換える必要があります。これらの製品にシリアル番号は必要ありません。

---

注 - Sun Performance Library 7 ソフトウェアおよび Forte Developer 7 ソースディストリビューションソフトウェアは、Forte Developer 7 のインストールに使用したディレクトリと同じディレクトリにインストールする必要があります。

---

---

## PATH 変数と MANPATH 変数の変更

Forte Developer 7 ソフトウェア製品のコンポーネントとマニュアルページは、システムの `/usr/bin/` と `/usr/share/man` の各ディレクトリにインストールされないのので、Forte Developer 7 ソフトウェアを使用できるようにするには、PATH 環境変数と MANPATH 環境変数を変更する必要があります。

---

注 - この節で示しているパスでは、Forte Developer パッケージは、標準の `/opt` ディレクトリにインストールされているとみなされます。ソフトウェアを起動したときに別のインストールディレクトリを指定した場合は、例の中の `/opt` を、ユーザーが選択したインストールパスに置き換えてください。

---

C シェルを使用している場合は、PATH 変数と MANPATH 変数はホームの `.cshrc` ファイルに設定し、Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合は、ホームの `.profile` ファイルに設定する必要があります。

---

注 - /opt/SUNWspro/bin は Forte Developer 7 ソフトウェアで新しく追加されたパスです。以前のリリースとの下位互換については、シンボリックリンクが作成されるので、既存のPATH および MANPATH を変更する必要はありません。必要に応じて PATH および MANPATH を変更してください。

---

PATH 変数および MANPATH 変数の詳細については、SunOS マニュアルページの `csh(1)` に C シェルの PATH 変数について、`sh(1)` に Bourne シェルの PATH 変数について、`ksh(1)` に Korn シェルの PATH 変数についてそれぞれ説明されています。man(1) のマニュアルページは、MANPATH 変数について説明しています。

## Forte Developer ツールにアクセスするための PATH 環境変数の設定

Forte Developer 7 ソフトウェアコマンドを使用するには、PATH 環境変数にパス /opt/SUNWspro/bin を含める必要があります。PATH 環境変数を設定する必要性の有無を判定するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力して、PATH 変数の現在の値を表示します。

```
% echo $PATH
```

2. /opt/SUNWspro/bin/ を含むパスの文字列を確認します。
  - パスが見つかった場合、PATH 変数は Forte Developer ツールにアクセスできるように設定されています。( /opt パスは代替インストールパスで置き換えることもできます。)
  - パスが見つからない場合、次のステップの説明どおりに PATH 変数を設定します。
3. パス /opt/SUNWspro/bin/ を PATH 環境変数に追加します。
  - C シェルを使用している場合、ホームディレクトリの .cshrc ファイルをパスに追加します。
  - Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合、ホームディレクトリの .profile ファイルをパスに追加します。

## Forte Developer マニュアルページにアクセスするための MANPATH 環境変数の設定

man コマンドを使用して Forte Developer 7 ソフトウェアマニュアルページにアクセスするには、MANPATH 環境変数にパス /opt/SUNWspro/man を含める必要があります。MANPATH 環境変数を設定する必要性の有無を判定するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力して、dbx(1) マニュアルページを要求します。

```
% man dbx
```

2. 出力を確認します。

man dbx コマンドが dbx(1) マニュアルページを検索できない場合、または表示されているページがインストールしたソフトウェアのバージョン用でない場合は、MANPATH 変数が正しく設定されていません。次の手順の説明に従って、MANPATH 変数を設定してください。

3. パス /opt/SUNWspro/man/ を MANPATH 環境変数に追加します。

- C シェルを使用している場合、ホームディレクトリの .cshrc ファイルをパスに追加します。
- Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合、ホームディレクトリの .profile ファイルをパスに追加します。

### 適当な環境変数への変更内容の追加

以下の説明では、該当する環境変数にこれらのパスを永久に追加する方法を示し、いずれの Forte Developer 7 のコンポーネントも常に利用できるようにします。これらのコマンドは、シェルプロンプトに入力して、そのシェルを一時的に利用できるようにすることもできます。

1. Forte Developer 7 ソフトウェアを PATH 変数と MANPATH 変数に追加します。

---

注 - インストールしたソフトウェアを使用するため、Forte Developer 7 ソフトウェアが各ユーザー環境に含まれるように PATH 変数と MANPATH 変数を設定する必要があります。

---

- C シェル (csh) を使用している場合は、まず MANPATH 変数がすでに設定されているかどうかを確認します。シェルプロンプトで、次のコマンドを入力してください。

```
% echo $MANPATH
```

「未定義の変数 (Undefined variable)」(C シェル) または空白行 (Bourne/Korn シェル) が表示された場合は、MANPATH 変数は設定されていません。複数のマニュアルディレクトリへのパスが表示された場合は、MANPATH 変数は設定済みです。

ホームディレクトリで .cshrc ファイルを編集し、ファイルの末尾に次の行を追加します。

```
set path=(/opt/SUNWspro/bin $path)
```

MANPATH 変数が設定されていない場合は、次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:/usr/share/man
```

MANPATH 変数が設定済みの場合は、代わりに次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:$MANPATH
```

- Bourne シェル ( sh) または Korn シェル ( ksh) を使用している場合は、ホームディレクトリの .profile ファイルを編集し、次の行を追加します。

```
PATH=/opt/SUNWspro/bin${PATH:+:} ${PATH}
MANPATH=/opt/SUNWspro/man:${MANPATH:=/usr/share/man}
```

これらの 2 行にスペースを入力しないでください。

2. 手順 1 で修正した .cshrc ファイルまたは .profile ファイルを保存します。

3. 次のコマンドを実行してシェルを再度初期設定します。

C シェルの場合

```
source ~/.cshrc
```

Bourne シェルまたは Korn シェルの場合

```
. ~/.profile
```

これで Forte Developer 7 ソフトウェアを使用する準備が整いました。



## 第4章

---

# アンインストーラによるソフトウェアのアンインストール

---

この章では、インストールされている製品ソフトウェアおよびパッチをアンインストールする方法について説明します。

ソフトウェアのインストール完了後、アンインストーラが自動的に作成されます。このアンインストーラを使用して Forte™ Developer 7ソフトウェアを削除する方法は3種類あります。

- アンインストーラ GUI を使用する
- コマンド行を使用する
- バッチアンインストーラを使用する

---

注 - ソフトウェアのアンインストールに `pkgrm` コマンドを使用しないようにしてください。提供されているアンインストーラを使用してください。

---

アンインストール方法の説明で使用するアンインストールするファイル名の例は、Forte Developer 7ソフトウェアを対象にしています。製品のアンインストールで使用するソフトウェア名および `.class` アンインストールファイル名を表 4-1 に示します。

表 4-1 ソフトウェア名およびそのソフトウェアのアンインストール .class ファイル名

ソフトウェア名	アンインストール .class ファイル名
Forte Developer 7 ソフトウェア	uninstall_Forte_Developer_7_SPARC.class
Forte Developer 7 ソフトウェアとともにインストールされる Solaris パッチ	uninstall_Solaris_patches_for_Forte_Developer_7.class
Sun Performance Library 7	uninstall_Sun_Performance_Library_7.class
Forte Developer 7 Source Distribution	uninstall_Forte_Developer_7_Source_Distribution.class

## ローカルアンインストールとリモートアンインストールの選択

ソフトウェア製品はローカルシステムまたはリモートシステムでアンインストールできます。ローカルアンインストールを実行する場合は、57 ページの「グラフィカルユーザーインタフェースのアンインストーラの使い方」、59 ページの「コマンド行アンインストーラの使い方」、または 60 ページの「バッチアンインストーラの使い方」に進んでください。

リモートアンインストールを実行する場合は、次に進んでください。

1. ターゲットマシンで、コマンド行に次のコマンドを入力します。これで、クライアントにアクセスできるようになります。

```
% /usr/openwin/bin/xhost + source-machine-name
```

*source-machine-name* には、ソースマシンで `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

2. ソースマシンにログインし、次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% rlogin source-machine-name -l root  
Password:root-password
```

3. ディスプレイを使用しているモニターに設定します。  
C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY hostname:0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=hostname:0  
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=hostname:0
```

*hostname* には、`/usr/bin/hostname` コマンドの出力内容を入力します。

4. 57 ページの「グラフィカルユーザーインターフェースのアンインストーラの使い方」、59 ページの「コマンド行アンインストーラの使い方」、または 60 ページの「バッチアンインストーラの使い方」に進んでください。

---

## グラフィカルユーザーインターフェースのアンインストーラの使い方

アンインストーラを実行するには、次の手順を実行します。

1. 個別のシェル ウィンドウで次のコマンドを入力することにより、クライアントにアクセスすることができます。

```
% xhost +
```

2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

3. 次のコマンドを入力して、製品ディレクトリに移動します。 *com.sun.forte\_developer\_7* にはアンインストールするディレクトリ名を入力します。

```
# cd /var/sadm/prod/com.sun.forte_developer_7
```

4. アンインストール GUI を実行するには、次のコマンドを入力し、*Forte\_Developer\_7\_SPARC* に適切なアンインストールファイル名を挿入します。

```
# /usr/bin/java uninstall_Forte_Developer_7_SPARC
```

---

注 - コマンドを入力する際に *.class* 拡張子を含めないでください。

---

アンインストール開始画面が表示されます。最初のウィンドウは、アンインストールされる製品を示しています。

5. 「次へ」をクリックして、作業を続けます。
6. アンインストールの準備完了区画で、「アンインストール開始」をクリックします。
7. 「終了」をクリックしてアンインストーラを終了します。
8. リモートアンインストールを実行した場合は、次の手順に従ってください (リモートアンインストールを実行しなかった場合は、手順 9 に進みます)。
  - a. 次のコマンドで、クライアントからのアクセスを不能にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - source-machine-name
```

b. 次のコマンドを入力して、ソースマシンでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

9. ターゲットマシンでスーパーユーザーの権限を終了します。

```
# exit
```

---

## コマンド行アンインストーラの使い方

コマンド行でソフトウェア製品を削除するには、次の手順に従ってください。

1. ローカルまたはリモートのどちらでアンインストールするかを決定します。詳細については、56 ページの「ローカルアンインストールとリモートアンインストールの選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

3. 次のコマンドを入力して、製品ディレクトリに移動します。

```
# cd /var/sadm/prod/com.sun.forte_developer_7
```

4. 次のコマンドを入力して、コマンド行アンインストーラを実行します。  
*Forte\_Developer\_7\_SPARC* は適切なアンインストールファイル名で置き換えてください。

```
# /usr/bin/java uninstall_Forte_Developer_7_SPARC -nodisplay
```

---

注 - コマンドを入力する際に `.class` 拡張子を含めないでください。

---

最初の行は、アンインストールされる製品を示しています。

5. Enter キーを押して、作業を継続します。
6. 全体的にアンインストールする場合は、**1** と入力します。  
すべてのコンポーネントが自動的に削除されます。進捗インジケータが表示されます。
7. アンインストールが完了した場合、製品に対応する番号を入力すると、その製品のログファイルを確認できます。確認作業が終了したら、**完了** の番号を入力します。
8. 「**Exit**」と入力してアンインストーラを終了します。
9. リモートアンインストールを実行した場合は、次の手順に従ってください (リモートアンインストールを実行しなかった場合は、手順 10 に進みます)。
  - a. 次のコマンドで、クライアントからのアクセスを不能にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - source-machine-name
```

- b. 次のコマンドを入力して、ソースマシンでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

10. ターゲットマシンでスーパーユーザーの権限を終了します。

```
# exit
```

---

## バッチアンインストーラの使い方

バッチインストーラでソフトウェア製品を削除するには、次の手順を実行します。

1. ローカルまたはリモートのどちらでアンインストールするかを決定します。詳細については、56 ページの「ローカルアンインストールとリモートアンインストールの選択」を参照してください。

2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

3. 次のコマンドを入力して、製品ディレクトリに移動します。com.sun.Forte\_Developer\_7 は適切なディレクトリ名で置き換えてください。

```
# cd /var/sadm/prod/com.sun.forte_developer_7
```

4. 次のコマンドを入力して、バッチアンインストーラを実行します。Forte\_Developer\_7\_SPARC は適切なアンインストールファイル名で置き換えてください。

```
# /usr/bin/java uninstall_Forte_Developer_7_SPARC -nodisplay -noconsole
```

---

注 - コマンドを入力する際に .class 拡張子を含めないでください。

---

5. Enter キーを押して、作業を継続します。  
バッチアンインストーラにより製品が削除されます。アンインストールが完了すると、プロンプトが返されます。
6. リモートアンインストールを実行した場合は、次の手順に従ってください (リモートアンインストールを実行しなかった場合は、手順7に進みます)。
- a. 次のコマンドで、クライアントからのアクセスを不能にします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost - source-machine-name
```

- b. 次のコマンドを入力して、ソースマシンでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

7. ターゲットマシンでスーパーユーザーの権限を終了します。

```
# exit
```

## 第5章

# トラブルシューティング

この章では、Forte™ Developer 7 ソフトウェアのインストールおよびアンインストール中に発生する問題について説明します。

## 製品登録の問題

productregistry ファイルの破損をともなうインストールまたはアンインストールの問題が生じた場合、一部の事例では、Solaris Product Registry Tool を使用すると、問題点を突き止めて修正することができます (Solaris 8 以降)。

## インストールの失敗をどのように突き止めて修正しますか。

インストールの実行中に、いくつかのパッケージが正しくインストールされなかった場合、Forte Developer 7 ソフトウェアを使用する際に問題が生じます。たとえば、pkgadd コマンドを使用してソフトウェアをインストールした場合、productregistry ファイルが破損します。すべてのパッケージが正しくインストールされたかどうか確認するには、次を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. 次の通り入力して、Solaris Product Registry ツールを起動します。

```
% /usr/bin/prodreg&
```

3. ツールの左のカラムで、Registered Software の見出しの下のリストを参照します。製品名の隣に黄色の三角形があれば、その製品は正しくインストールされていません。
4. 製品名を選択して、「アンインストール」ボタンをクリックします。  
「アンインストール失敗」ダイアログボックスが表示されます。
5. ボックス中のメッセージを読み、製品をアンインストールする場合は、了解をクリックします。  
「対話式アンインストール」ダイアログボックスが表示されます。
6. アンインストールが完了するまでに、続いて表示されるダイアログボックス中の指示に従ってください。  
アンインストールが完了すると、製品ソフトウェアを再インストールできます。製品をインストールする手順については、第 2 章を参照してください。

## productregistry ファイルが破損している場合、どのように対処しますか。

63 ページの「インストールの失敗をどのように突き止めて修正しますか。」の手順に従ってインストールまたはアンインストールの失敗を修正後もまだ問題が残っている場合、破損している productregistry ファイルをシステムから削除します。pkgadd コマンドまたは pkgrm コマンドを使用してソフトウェアのインストールまたはアンインストールを試みた場合、productregistry ファイルは破損します。

1. プロンプトに次のコマンドを入力して productregistry ファイルに移動します。

```
% cd /var/sadm/install
```

2. 次のように入力して、productregistry ファイルを削除します。

```
% rm prodregistry
```

アンインストールが完了すると、製品ソフトウェアを再インストールできます。製品をインストールする手順については、第2章を参照してください。

---

## ログファイルとシリアル番号ファイル

Forte Developer 7ソフトウェアをインストールすると、インストールの記録を含んでいるログファイルが自動的に生成されます。

インストールのログファイルは、どのように表示しますか。

ログファイルを確認することでインストールの問題に対処するには、`/var/sadm/install/logs` でファイルを検出します。

インストールされているシリアル番号はどのように検索しますか。

製品のログファイルを表示して、シリアル番号を探してください。製品を登録する際にシリアル番号が必要です。serial.dat ファイルの内容を表示するには、次の手順に従います。

1. 次のコマンドを入力して、製品ディレクトリに移動します。

```
% cd /opt/SUNWspro/bin/
```

2. 次のように入力して、serial.dat ファイルの内容を表示します。

```
% cc -xlicinfo
```

自分のシリアル番号を忘れてしまった場合は、どのように対処しますか。

シリアル番号を忘れてしまい、serial.dat ファイルの内容を表示することもできない場合、カスタマーサポート (<http://www.sun.co.jp/forte/developer/support.html>) に連絡してください。

---

## システムの修正

システムの要件を満たしたり、製品のインストールプロセスに対応するために、システムを修正する必要がある場合があります。

シンボリックリンクがポイントするディレクトリにインストールするには、どのようにしますか。

インストールの最中、パスの一部がシンボリックリンクとなるディレクトリにインストールすることができます。たとえば、デフォルトのディレクトリ /opt に十分なディスクスペースがない場合、/export/opt をポイントする /opt のシンボリックリンクを作成できます。インストーラがシンボリックリンクを迂回して実際のファイルシステムにインストールするのを回避するには、次の回避策を実行する必要があります。

1. 次のように入力して、既存のシンボリックリンクを保存します。

```
# mv symlink temp
```

2. 次のように入力して、マウント先となる新しい /opt ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /opt
```

3. 次のように入力して、`/opt` として利用できるようにターゲットディレクトリをマウントします。

```
# mount -F nfs localhost:/directory/opt /opt
```

4. 製品をインストールします。
5. 次のように入力して、ターゲットディレクトリをアンマウントします。

```
# umount /opt
```

6. 手順 1 で移動したシンボリックリンクを復元します。

```
# mv temp symlink
```

## インストーラを呼び出すとシステムが動かなくなるのはなぜですか。

インストールの最中にシステムが動かなくなる場合、インストーラが必要とされる Java™ ソフトウェアバージョンを使用していない可能性があります。

- プロンプトに次のように入力してください。

```
% java -version
```

上記のコマンドを入力した後もシステムが動かなくなる場合、Java™ ソフトウェアバージョンが破損している可能性があります。



## 付録 A

### Forte Developer 7 コンポーネントおよび パッケージ

---

この付録では、ソフトウェア開発に利用できる Forte™ Developer 7 コンポーネント、各製品の機能名とパッケージ名に関する情報を提供します。

表 A-1 は、Solaris™ オペレーティング環境 (SPARC プラットフォーム版) に対応する Forte Developer パッケージコンポーネントおよびメタクラス構成情報を示します。

表 A-2 は、Solaris SPARC プラットフォーム版 に対応する Forte Developer 製品パッケージコンポーネントおよび構成情報を示します。

表 A-1 Solaris SPARC プラットフォーム版 に対応する Forte Developer 製品パッケージのメタクラスタコンポーネント

説明	コンポーネント	メタクラスタ構成
Forte Developer 7 Compilers SPROMCPL	Forte Developer 7 コンパイラ C	SPROCC
	Forte Developer 7 コンパイラ C++	SPROCC
	Forte Developer コンパイラ Fortran	SPROCFOR
	レガシーライブラリをともなう Forte Developer コンパイラ Fortran 95	SPROCFORL
	Forte Developer 7 インベントリファイル	SPROCFD
Forte Developer 7 Tools SPROMTOOL	Forte Developer LockLint, 製品ソフトウェア	SPROCLKLT
	Forte Developer 7 DBX デバッグ ツール	SPROCDBX
	Forte Developer 7 ガベージコレクタ	SPROCLGC
	Forte Developer 7 パフォーマンスア ナライザ	SPROCPRFA
	Forte Developer 7 構築ソフトウェア	SPROCBLD
Forte Developer 7 マニュアル セット SPROMDOCS	Forte Developer 7	SPROCDOCS
Sun Performance Library 7 SPROMPLIB	Forte Developer 7 パフォーマンスア ナライザ	SPROCPERF
Forte Developer 7 Source Distribution SPROMSRC	Dwarf ライブラリ	DWSRC
	Red-Black ツリーライブラリ	RDBLKSRC
	Forte Developer 7 STLPort	STLSRC

表 A-2 SPARC プラットフォーム版 に対応する Forte Developer 製品パッケージコンポーネント

コンポーネント	説明	パッケージリスト
Forte Developer 7	一般的なコンポーネント	SPROLANG
Compilers C SPROCC	Forte Developer インクリメンタルリンカー コンパイラ C 一般的なツール C のマニュアルページ/オンライン情報	SPROILD SPROcc SPROutool SPROmrcc
	一般的なコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrcom
	C9X Math Library	SPROM9XS
	ソースブラウザのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrsbe
	ソースブラウザ	SPROsbe
	Sunmath ライブラリ	SPROSM
Compilers C+ SPROCPL	コンパイラ C++ C++ ライブラリ (64 ビット)	SPROcpl SPROcplx
Forte Developer 7 Compilers C++ SPROCCC	一般的なコンポーネント インクリメンタルリンカー コンパイラ C++ 一般的なツール 一般的なコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報	SPROLANG SPROILD SPROCPL SPROutool SPROmrcom
	C9X Math Library	SPROM9XS
	ソースブラウザのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrsbe
	ソースブラウザ	SPROsbe
	STLPort	SPROSTLPORT
	C++ Complex Library	SPROcml
	C++ のマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrcom
	Tools.h++ 7.1	SPROTL7
	C++ の Forte Developer 標準ライブラリ	SPROSCL

表 A-2 SPARC プラットフォーム版 ( 続き ) に対応する Forte Developer 製品パッケージコンポーネント ( 続き )

コンポーネント	説明	パッケージリスト
Forte Developer	一般的なコンポーネント	SPROlang
Compilers の一般的なコンポーネント	一般的なコンポーネント (64 ビット)	SPROlangx
SPROLANG	リンカースタブライブラリ	SPROsbld
	リンカースタブライブラリ (64 ビット)	SPROsbl dx
	別パッケージの共有 libcx	SPROlcxs
	Dwarf サポートライブラリ	SPROdwrfb
	Red-Black ツリーライブラリ	SPROrdbk b
	Dwarf サポートライブラリ 64 ビット	SPROdwrfx
	Red-Black ツリーライブラリ V9	SPROrdbkx
C++ の Forte Developer 標準ライブラリ	C++ の標準クラスライブラリ	SPROscl
	C++ の標準クラスライブラリ (64 ビット)	SPROsclx
SPROSCL	C++ の標準クラスライブラリのマニュアルページ	SPROmrstd
Forte Developer Tools.h++ 7.1	C++ の Tools.h++ 7.1 クラスライブラリ	SPROtlbn7
SPROTL7	C++ の Tools.h++ 7.1 クラスライブラリ (64 ビット)	SPROtl17x
	C++ の Tools.h++ 7.1 クラスライブラリ (64 ビット)	SPROtl17x
Forte Developer インクリメンタルリンカー	インクリメンタルリンカー	SPROild
SPROILD	インクリメンタルリンカー 64 ビット	SPROildx
Forte Developer C9X Math Library	C9X Math Library	SPROm9xs
SPROM9XS	C9X Math Library (64 ビット)	SPROm9xsx
	C9X Math Library Profiled (64 ビット)	SPROm9xpx
Forte Developer Sunmath ライブラリ	libsunmath 共用/プロファイル (64 ビット)	SPROsmpx
SPROSM	libsunmath 共用 (64 ビット)	SPROsmsx
	別パッケージの共用 libsunmath	SPROsunms

表 A-2 SPARC プラットフォーム版 ( 続き ) に対応する Forte Developer 製品パッケージコンポーネント ( 続き )

コンポーネント	説明	パッケージリスト
STLport, Source Distribution STLSRC	STLPort version 4 ソース	SPROst14h
Forte Developer STLPort SPROSTLPORT	STLPort version 4 静的ライブラリ	SPROst14a
	STLPort version 4 source	SPROst14h
	STLPort version 4 動的ライブラリ	SPROst14o
	STLPort version 4 動的ライブラリ (64 ビット)	SPROst14x
	STLPort version 4 動的ライブラリ (64 ビット)	SPROst14y
Forte Developer Compilers Fortran Cluster SPROCFOR	コンパイラ FORTRAN 77 ツール	SPROftool
	Forte Developer インクリメンタルリンカー	SPROILD
	一般的なコンポーネント	SPROLANG
	コンパイラ Fortran 95 ライブラリ	SPROLIB90
	コンパイラ Fortran 90	SPROF90
	一般的なツール	SPROutool
	Fortran 95 のマニュアルページとオンライン情報	SPROmrf90
	Fortran 77 のマニュアルページとオンライン情報	SPROmrf77
	一般的なコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrcom
	C9X Math Library	SPROM9XS
	Sunmath ライブラリ	SPROSM
	ソースブラウザのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrsbe
	ソースブラウザ	SPROsbe

表 A-2 SPARC プラットフォーム版 ( 続き ) に対応する Forte Developer 製品パッケージコンポーネント ( 続き )

コンポーネント	説明	パッケージリスト
Forte Developer	Fortran 95 静的ライブラリ	SUNW190
Compilers Fortran 95 ライブラリ	Fortran 95 動的ライブラリ	SUNW190s
SPROLIB90	STLPort version 95 動的ライブラリ (64 ビット)	SPRO190sx
	STLPort version 95 静的ライブラリ (64 ビット)	SPRO190x
レガシーライブラリをとまなう Forte Developer	コンパイラ FORTRAN 77 ツール	SPROftool
Compilers Fortran 95	一般的なコンポーネント	SPROLANG
SPROCFORL	FORTRAN 77 動的ライブラリ (64 ビット)	SPRO177s
	FORTRAN 77 動的ライブラリ (64 ビット)	SPRO177sx
	コンパイラ Fortran 95 ライブラリ	SPROLIB90
	コンパイラ Fortran 90	SPROf90
	Forte Developer インクリメンタルリンカー	SPROILD
	一般的なツール	SPROutool
	Fortran 95 のマニュアルページとオンライン情報	SPROmrf90
	一般的なコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrcom
	C9X Math Library	SPROM9XS
	Sunmath ライブラリ	SPROSM
	ソースブラウザのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrsbe
	ソースブラウザ	SPROsbe
Forte Developer LockLint、製品ソフトウェア	Locklint ソフトウェア	SPRO1klnt
SPROCLKLT	マニュアルページとオンライン情報	SPROmrmp

表 A-2 SPARC プラットフォーム版 ( 続き ) に対応する Forte Developer 製品パッケージコンポーネント ( 続き )

コンポーネント	説明	パッケージリスト
Forte Developer	デバッグツール	SPROdbx
DBX デバッグツール	デバッグツール (64 ビット)	SPROdbxx
SPRODBX	dbx のマニュアルページとオンライン情報	SPROmrdbx
	デバッグツール	SPROjdbx
	デバッグツール (64 ビット)	SPROjdbxx
Forte Developer 7 構築ソフトウェア	一般的なコンパイラのマニュアルページ/ オンライン情報	SPROmrcom
SPROBLD	分散 make	SPROdmake
Forte Developer 7 インベントリファイル	インベントリファイル	SPROfd
SPROCFD		
DwarfLibrary, Source Distribution	Dwarf ライブラリ	SPROdwrfs
DWSRC		
RDBLKS, Source Distribution	Red-Black ツリーライブラリ	SPROrdbks
RDBLKS		
Sun PerfLib アーカイブ ライブラリ	Performance Library 32 ビット (アーカイブ /MT)	SPROplm
SPROPL	Performance Library 64 ビット (アーカイブ /MT)	SPROplmx
	Performance Library 32 ビット (アーカイブ)	SPROpl
	Performance Library 64 ビット (アーカイブ)	SPROplx
Sun PerfLib 共用ラ イブラリ	Performance Library 32 ビット (共用/MT)	SPROplms
SPROPL	Performance Library 64 ビット (共用/MT)	SPROplmsx
	Performance Library 32 ビット (共用)	SPROpls
	Performance Library 64 ビット (共用)	SPROplsx
Forte Developer ガ ベージコレクタ	C++ のガベージコレクタライブラリ	SPROgc
SPROLGC	C++ のガベージコレクタライブラリ 1.0	SPROlgc
	C++ のガベージコレクタのマニュアルページ	SPROmrgc

表 A-2 SPARC プラットフォーム版 ( 続き ) に対応する Forte Developer 製品パッケージコンポーネント ( 続き )

コンポーネント	説明	パッケージリスト
Forte Developer ガ ベージコレクタ 64 ビットライブラリ 1.0 SPROLGCX	C++ のガベージコレクタライブラリ C++ のガベージコレクタライブラリ 1.0	SPROgcx SPROlgcx
Forte Developer ガ ベージコレクタク ラスト SPROLGC	Forte Developer ガベージコレクタ Forte Developer ガベージコレクタ 64 ビット ライブラリ 1.0	SPROLGC SPROLGCX
Sun Performance Library SPROCPERF	一般的なコンポーネント コンパイラ Fortran 95 ライブラリ Sun Performance Library のマニュアルペー ジ Performance Library の一般的なコンポーネ ント 別パッケージの共用 libsunmath libsunmath 共用 (64 ビット) Sun perflib アーカイブライブラリ Sun perfLib 共用ライブラリ	SPROLANG SPROLIB90 SPROmrpl SPROplg SPROsunms SPROsmsx SPROPL SPROPLS
Forte Developer Performance Analyzer SPROCPRFA	パフォーマンスアナライザのマニュアルペー ジとオンライン情報 パフォーマンスアナライザ パフォーマンスアナライザ (64 ビット)	SPROmrpan SPROprfan SPROprfax
Forte Developer マ ニュアルセット SPROCDPCS	著作権と画像 リリースノート Tools.h++ 7.1 マニュアル 標準ライブラリ C++ マニュアル インストールマニュアル Fortran マニュアル	SPROhtbas SPROhtrel SPROhttl7 SPROhtstd SPROhtins SPROhtftn

表 A-2 SPARC プラットフォーム版 ( 続き ) に対応する Forte Developer 製品パッケージコンポーネント ( 続き )

コンポーネント	説明	パッケージリスト
	C コンパイラのマニュアル	SPROhtcc
	一般的なツールのマニュアル	SPROhtcom
	C++ コンパイラ	SPROhtcpl
	OpenMP API ユーザーズガイド	SPROhtomp
	Performance library のマニュアル	SPROhtpl
	アナライザと dbx のマニュアル	SPROhtws
Forte Developer	Demo ファイル	SPROdemo

DemoSPROCDemo

注: パッケージリストには、英語版のパッケージ名がリストされています。日本語版製品をインストールした場合、英語版パッケージ (SPRO\*) に対応する日本語版パッケージ (SPJA\*) がインストールされます。(例: コンパイラ C パッケージ SPROcc に対応する日本語パッケージ名は SPJAcc となります。)



## 付録 B

### Solaris パッチの識別および説明

この付録では、Solaris™ オペレーティング環境のパッチの識別番号を提供し、Forte™ Developer 7 ソフトウェアインストールに含まれるパッチについて説明しています。

表 B-1 に Solaris 7 SPARC プラットフォーム版のパッチ番号および説明を示します。

表 B-2 に Solaris 8 SPARC プラットフォーム版のパッチ番号および説明を示します。

表 B-1      Solaris 7 SPARC プラットフォーム版の Forte Developer 7 ソフトウェアとともにインストールされているパッチ番号と説明

パッチ識別番号	パッチの説明
106950-17	リンカー
106327-13	Solaris 7 libC sparc

表 B-2      Solaris 8 SPARC プラットフォーム版の Forte Developer 7 ソフトウェアとともにインストールされているパッチ番号と説明

パッチ識別番号	パッチの説明
109147-14	Solaris 8 リンカー
108434-06	Solaris 8 libC sparc



## 用語集

---

### Early Access シリアル 番号

インストールを実行中にインストーラにより生成される番号。有効期限付きでソフトウェアを無償で使用することができます。

### アプリケーション サーバー

製品ソフトウェアがインストールされるマシン。ライセンスサーバーを兼ねることもできます。

### インストール ディレクトリ

Forte Developer 製品とライセンスをインストールするディレクトリ。デフォルトは /opt です。

### 製品サーバー

アプリケーションサーバーを参照してください。

### ソースコンピュータ

製品 CD を読み込ませた CD-ROM ドライブのあるマシン。または、製品ソフトウェアをダウンロードしたマシン。ローカルインストール、リモートインストール、ターゲット コンピュータも参照してください。

### ターゲット コンピュータ

製品ソフトウェアのインストールに使用されるマシン。ローカルインストール、リモートインストール、ソースコンピュータも参照してください。

## パッケージ間の依存 関係

あるパッケージをインストールするとき、そのパッケージが依存している別のパッケージもインストールしなくてはならないことがあります。たとえば、コンパイラをインストールする場合は、バックエンドコンポーネント、ヘッダーファイル、およびフロントエンドコンポーネントのパッケージもインストールする必要があります。

## リモートインストール

あるマシン (ソースコンピュータ) で製品ソフトウェアのインストール作業またはダウンロードを行い、別のマシン (ターゲットコンピュータ) にそのソフトウェアをインストールすること。ソースコンピュータ、ターゲットコンピュータも参照してください。

## ローカルインストール

CD-ROM ドライブを装備したマシンで製品 CD を読み込み、同じマシンに製品ソフトウェアをインストールすること。または、製品ソフトウェアをダウンロード後、同じマシンにインストールすること。ローカルインストールの場合は、ソースコンピュータとターゲットコンピュータが同じマシンになります。ソースコンピュータ、ターゲットコンピュータも参照してください。

# 索引

---

## F

Forte Developer マニュアルへのアクセス xi

## J

JumpStart インストール 23, 47

## S

Solaris 版の対応 2

## あ

アクセスできる製品マニュアル xii

アンインストール

グラフィカルユーザーインタフェース 57

コマンド行 59

バッチモード 60

アンインストールファイル名 56

## い

インストール

JumpStart 23, 47

60 日間試用シリアル番号 38

CD-ROM 5

概要 1

グラフィカルユーザーインタフェース 11, 35

互換性 5, 29

コマンド行 15, 40

シリアル番号 14, 38

ダウンロード 29

バッチインストーラ 19, 44

リモート 17, 31

リモート 27, 8, 31, 32

ローカル 7, 31

## こ

互換性 5, 29

## さ

サポート

連絡 xiii

サポートへの連絡 xiii

## し

システム条件 2

条件、システム 2

書体と記号について x

シリアル番号

60 日間試用の生成 18

インストール 18, 42

## そ

ソフトウェア  
互換性 5, 29  
削除 55

## ろ

ローカルインストール 7, 31

## は

バージョン  
互換性 5, 29  
バッチ  
インストール 19, 44  
コマンドオプション 20, 45

## へ

変数  
MANPATH 25, 51  
PATH 24, 50  
変更 24, 49

## ま

マニュアルの索引 xi

## め

メモリーの条件 2

## も

モニター解像度の条件 2

## り

リモートインストール  
リモート 17, 31  
リモート 27, 31, 32